

日進市障害者自立支援協議会 専門部会実施報告書

報告者	野々山 勝己	市確認欄	
専門部会名	第 1 回	ケアマネジメント部会	
日 時	令和 4 年 4 月 2 6 日 (火) 1 4 時 3 0 分 ~ 1 6 時 0 0 分		
会 場	障害者福祉センター大会議室		
出席者	部会員 6 名	市職員 5 名	事務局 5 名
	※出席者名簿は、別添のとおり		
傍聴者	有り (名 : 別添名簿のとおり) ・ <input type="checkbox"/> なし		
報告・検討 の内容	1 部会長、副部会長の選出		
	2 前回の振り返り		
	3 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて		
	4 その他		
	今年度のケアマネ部会の検討内容について		
	今年度の部会の開催予定について (開催頻度)		
提出資料	別添のとおり		
主な意見	1 部会長、副部会長の選出 ・部会長に興梶さん (愛歩)。副部会長は部会長の指名により、 椎葉さん (ゆったり工房) を選出する。		
	2 前回の振り返り ・精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて、 ゆったり工房 杉山さんのリカバリーストーリーを伺う。 ・R 4 年度ケアマネ部会の検討内容。		
	3 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて ○「にも包括」についての取り組み・方向性を確認。		

- ・事例を積み重ねていく方法。地域生活拠点の事例や各事業所で出してもらった事例がある。また、各事業所で事例を出してもらう方法になる。
- ・事例からでないと問題が見えてこない。課題や困っていることについて出してもらうと良い。
- ・精神科医とのやり取りはあるのか。
 - 医者との会議参加はないが、退院調整会議に参加することはある。担当者会議ではワーカーの参加はあるが医者の参加はない。
- ・自立支援協議会に医者が参加していたこともある。
- ・瀬戸保健所の参加はできないか。
 - 昨年度、保健所に依頼をしたが業務都合のため、参加できないと話があった。
- ・リカバリーストーリーの中で、課題があった。①就労の難しさ②経済的自立（年金申請方法）③親が亡くなった後の不安④自分のことが「怖い」と思われていること等、キーワード的に問題が見えた。
- ・今までの事例で検討していくのか、もしくは他の事例を積み重ねていく必要があるのか。
 - 事例をもう少し出すことが出来るといいか。
- ・事業所で提供できる事例はある（65歳以上の方で、精神障害サービス利用から介護保険に切り替わる難しさ / 家族援助がある例 / 本人が望む生活）。事例から問題を考えることができる。そこから「課題の抽出」ができる。
- ・医療参加（医者）が難しいが、必ずしも参加できなくてもいい。例えば、ワーカーに質問して回答してもらう方法もある。
- ・日進市としての課題を病院ワーカーに質問して、回答をしてもらい課題を出していく方法もある。
- ・事例から課題を出し、医者からの意見が聞けるといい。
- ・「にも包括」のイメージが付きにくいいため、話しやすいところで事例を出して、皆で話ができるといいか。
- ・医者から話を聞けるといいが、部会でも質問するイメージができていないため、質問できるように内容を深めていけるといい。
- ・事例を通じて、日進市の課題を出していけるといいが、どのような視点を持ち事例を検討していけばいいのか。
 - 通常の実例検討ではなく、事例の概要を話してもらう。「阻害要因の視点」「促進要因の視点」で検討していく。類似の実例を出すことができると日進市の課題が出てくる。事例提供者も事例の出し方も整理していく必要がある。
- ・いくつかの実例を出してもらい、複数の事例の中で検討できる

といい。

○事例の出し方についての確認。

- ・「阻害要因」「促進要因」のシートを作っておくとまとめやすい。
- ・やり方は特にはないが、検討したい事柄を出してもらおう。
- ・「現状確認シート」の左側（普及啓発、ピアサポート等の項目の列）に「家族支援の問題」「経済的支援」等の必要性をまとめてもいい。
- ・昨年度の事例（2事例）を一度まとめてみてでもいいか。
- ・シンプルにまとめないと時間がかかってしまう。
- ・「にも包括の構築（厚生労働省資料）」P49資料がイメージつきやすい。
- ・担当者会議の事例概要のまとめ方、課題の出し方だと問題が出やすい。
- ・以前の2事例について、思いつく課題を上げていく。
→検討シートのひな形を検討し、2事例を協議予定。

4 その他

○今年度のケアマネ部会の検討内容について

- ・「にも包括」「勉強会」2つの内容を予定。
「勉強会」としては、「人材育成」の内容を検討。
- ・障害者差別解消法が改定しているが、事業所まで内容が浸透していない。自立支援協議会として取り組むことができるとよい。法律改定は、大きなことなので周知・啓発ができるといい。
- ・市として、パンフレットの作り直し・講演会を予定。
- ・就労部会で障害者雇用について交流会を行っている。就労部会を絡めて取り組めれるといい。
- ・権利擁護部会で差別解消法パンフレットを置いた。事業所だけでなく、民間にも設置できるといい。
- ・それぞれの部会で行っていることをケアマネ部会で取りまとめていけるといい。
- ・現場職員の支援ができるように勉強をしたい。事業所で交流会を含めてできるといい。事業所のフェス（マルシェ）をして、当事者だけでなく、家族にも参加してもらおう。地域に目を向けてもらうために、福祉をPRしていくことが出来れば。そのような会を催していくのも1つの方法か。
- ・交流なら、職員を交換して出向という形もある。事業所間で人材を交流していく方法もある。
- ・上記の方法でネットワーク作り、人材育成という視点でもいいのかもかもしれない。
- ・各部会での取り組んでいる内容をケアマネ部会で把握できるといい→事務局からの報告とする。

	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは「にも包括」中心で取り組んでいく。「勉強会」については、その都度、引き続き検討していくこととする。 ○開催頻度について <ul style="list-style-type: none"> ・現状のままの月1回の開催頻度について確認。 ・忙しいと思うが、参加しようと思えば参加できると思うので、現状の月1回でよいかと思う。 ・障害福祉の質の向上のために、月1回で実施できるといい。 ・個人的には月1回は多いと思うが、協力できることはしていきたい。 →部会員より、月1回の開催希望あり。 ・開催時間（第4火曜日14：30～）について確認。 ・すすく園の迎え（13：30～14：30が混む）時間と重なる。これ以上早い時間帯になると、駐車場の問題があるため、今年度も引き続き上記日時での開催となる。 <p style="text-align: right;">以上</p>												
今回確認事項	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">①</td> <td>部会長、副部会長の選出</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">②</td> <td>前回の振り返り</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">③</td> <td>精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">④</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">⑤</td> <td>・今年度のケアマネ部会の検討内容について</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">⑥</td> <td>・今年度の部会の開催予定について（頻度等）</td> </tr> </table>	①	部会長、副部会長の選出	②	前回の振り返り	③	精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて	④	その他	⑤	・今年度のケアマネ部会の検討内容について	⑥	・今年度の部会の開催予定について（頻度等）
①	部会長、副部会長の選出												
②	前回の振り返り												
③	精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて												
④	その他												
⑤	・今年度のケアマネ部会の検討内容について												
⑥	・今年度の部会の開催予定について（頻度等）												
次回検討課題	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">①</td> <td>精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">②</td> <td>その他</td> </tr> </table>	①	精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて	②	その他								
①	精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて												
②	その他												
次回開催日時	令和4年5月24日（火） 14：30～												
次回会場	障害者福祉センター 大会議室												

日進市障害者自立支援協議会 専門部会出席者名簿

専門部会名	第1回	ケアマネジメント部会
日 時	令和4年4月26日（火）14時30分～16時00分	
会 場	障害者福祉センター 大会議室	

専門部会員	その他参加者
① 松尾 俊明	
② 脇本 浩行 (欠)	
③ 興梠 精視	
④ 椎葉 梢	
⑤ 改田 真美	
⑥ 神谷 真里	
⑦ 熊谷 豊	

(市職員)

① 野村 圭一	② 櫻木 順子
③ 島津 ありさ	④ 稲葉 亮
⑤ 大橋 志乃	

(事務局)

① 市川 英子	② 西岡 きくの
③ 橋本 花実	④ 福田 有輝
⑤ 野々山 勝己	

日進市障害者自立支援協議会 専門部会実施報告書

報告者	野々山 勝己	市確認欄	
専門部会名	第2回	ケアマネジメント部会	
日時	令和4年5月24日（火）14時30分～16時00分		
会場	障害者福祉センター大会議室		
出席者	部会員 6名	市職員 4名	事務局 5名
	※出席者名簿は、別添のとおり		
傍聴者	有り（名：別添名簿のとおり） ・ なし		
報告・検討の内容	1 前回の振り返り		
	2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて		
	3 その他		
	今年度のケアマネ部会の検討内容について		
提出資料	別添のとおり		
主な意見	1 前回の振り返り ・ 部会長、副部会長の選出 ・ 「にも包括」について取り組み方の確認 ・ 今年度のケアマネ部会の検討内容について		
	2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて ○事例検討方法について（進め方） ・ 地域福祉課の用意した長野県版の事例検討シート（ゆったり工房使用）に沿って、概要を記入、事例を整理する。事例提供者より事前に事例課題を出しておくことが出来ると検討がしやすくなる。		

・情報量は A4 片面程度。

○愛歩の事例（読み込み・質問）

・家族関係は？

→母（70歳超）、長男（8歳上）、次男（7歳上）と同居。近い人に依存している。父とは離婚しており、会社経営者だった。父は本人を障害があるとみてはいなかった。電話を掛けることが出来るのなら、自分で支払えという感じ。

・適切な返事をしないとパニックになるとは？

→少しのことでパニックとなり怒る。そのため、利用者・職員とトラブルになる。職員の動きをよく見ており、意にそぐわないと激しく職員に言う。

・母親との電話の内容は？

→母親の生存確認の意味が強い。ちゃんと居るか気になるため、ひっきりなしに電話をする。多い日では、100回程所在確認。電話に出ないと、泣いて家から出られなくなる。

・精神科の診断は出ているか？

→知的障害はあるが、精神科の診断名は出していない。

・通話以外に LINE 等利用できるか？

→通話機能のみの使用。

・家族、愛歩職員以外に関係のある人は？

→いない。障害者相談支援センターの相談員を募っている。

・本人のモチベーションは？

→お金は好きで、仕事はしている。母と連絡するために、働いているか。

○課題

・母親への依存心が強い。

・社会参加が少ない。

・特定の人物への過度なこだわりがあるため、付き合い方・対応について検討が必要。

・母親との共依存の解消。現在の状況について、診断名がついていなく原因が分からないことが一番の課題。医療連携が出来るといい。

・本人のこだわりにおける職員関係について、どのようにしていけば職員とのトラブルが無くなるのか共有。

○ゆったり工房の事例（読み込み・質問）

・ルーティンのパターン化とは？

→症状が出てから生活全般がパターン化。しかし、子どもの時からその気配はあった。

・現在の障害者マンションを出て行くとは？

→施設がなくなるため、退去予定。

- ・グループホームの利用はできるのか？
 - 隣人の物音や気配が妄想に繋がる。共同生活は難しい。今後、一般のアパート入居を検討。しかし、事業所近くのアパートは、学生アパートが多く、学生に対して恐怖心がある。
 - ・糖尿病だけれど食事内容が悪いのでは？
 - 数値的には大丈夫。以前は、ジュース等飲んでいて、完全に1人であると糖尿病が戻る可能性がある。
 - ・電話を掛けてくることはあるか？
 - 必要時は自分で電話を掛ける。ニュースを観て、自分が事件を起こしてしまった（関係妄想）と思ってしまう。
 - ・コロナに関しての不安は？
 - コロナに関しては、不安はなかった。
 - ・本人の現在の心配事は？
 - 1番は住む場所の不安。実家に帰るという選択もある。
 - ・薬は本人に合っているか？
 - 合っていないということはない。副作用は特にない。
 - ・経済的不安があるが、就労のステップアップは？
 - 調子が悪い時でも、B型に通えている。A型利用は不安があり、支援者を変わりたくないという思いがある。
- 課題
- ・今後の住居先によっては、緊急時の連絡手段がなくなるため、携帯を持てるようにする。
 - ・生活リズムの改善
 - ・包丁を使うことが出来なく、1人で料理ができない。ヘルパー支援を増やすことに抵抗がある。
 - ・親亡き後の生活、兄弟関係、経済的（現在は支援あり）な不安がある。
- 今回の2事例について、「今後必要な支援、取り組むべき課題」「関係機関との連携」「あると良いと思うサービス・資源」等について意見交換→次回部会で今回の2事例を上記内容で検討予定。また、新しい事例を各自、1事例準備をお願いします。
- 3 その他
- 今年度のケアマネ部会の検討内容（勉強会）について
- ・令和2度のアンケート結果を受けて、研修テーマは、「発達障害」内容は「支援技術・知識向上」が一番多かった。そのため、今年度はこのテーマで取り組む予定。
 - ・内容の提案として「発達障害のVR体験」。費用（機材・プログラム使用料等、150名集めるとして1人4,000円負担）は掛かるが、費用徴収する方法もある。
 - ・ピアの方に話を聞くことは？

	<p>→その方のプライバシーを守れる範囲になるため、難しいか。 →次回、勉強会の取り組み内容について意見確認予定。 ○事例書式については、メールにて用意。各自1事例準備をお願いする。事例提出先は、事務局まで。 ○お知らせ ・あじさいコンサート7/9（土）14：00～日進市市民会館にて開催。問い合わせ：ゆったり工房椎葉さんまで連絡。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
<p>今回確認事項</p>	<p>① 前回の振り返り</p> <p>② 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて</p> <p>③ その他 今年度のケアマネ部会の検討内容</p> <p>④</p> <p>⑤</p> <p>⑥</p>
<p>次回検討課題</p>	<p>① 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて</p> <p>② その他</p>
<p>次回開催日時</p>	<p>令和4年6月28日（火） 14：30～</p>
<p>次回会場</p>	<p>障害者福祉センター 大会議室</p>

日進市障害者自立支援協議会 専門部会出席者名簿

専門部会名	第2回	ケアマネジメント部会
日時	令和4年5月24日(火) 14時30分～16時00分	
会場	障害者福祉センター 大会議室	

専門部会員	その他参加者
① 松尾 俊明	
② 脇本 浩行	
③ 興梠 精視	
④ 椎葉 梢	
⑤ 改田 真美 (欠)	
⑥ 神谷 真里	
⑦ 熊谷 豊	

(市職員)

① 野村 圭一 (欠)	② 櫻木 順子
③ 島津 ありさ	④ 稲葉 亮
⑤ 大橋 志乃	

(事務局)

① 市川 英子	② 西岡 きくの
③ 橋本 花実	④ 福田 有輝
⑤ 野々山 勝己	

日進市障害者自立支援協議会 専門部会実施報告書

報告者	野々山 勝己	市確認欄	
専門部会名	第3回	ケアマネジメント部会	
日時	令和4年6月28日(火) 14時30分 ~ 16時00分		
会場	障害者福祉センター大会議室		
出席者	部会員 5名	市職員 3名	事務局 5名
	※出席者名簿は、別添のとおり		
傍聴者	有り (名：別添名簿のとおり) ・ <input type="checkbox"/> なし		
報告・検討 の内容	1 前回の振り返り		
	2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて		
	3 その他		
	今年度のケアマネ部会の検討内容について		
提出資料	別添のとおり		
主な意見	1 前回の振り返り ・「にも包括」についての取り組みについて(事例確認) ・今年度のケアマネ部会の検討内容について(勉強会) 部会で集計したアンケート結果を受けて、研修テーマが「発達障害」、内容を「支援技術・知識向上」を予定。		
	2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて ○事例検討方法について ・前回は、愛歩・ゆったり工房の事例検討を実施。今回は、「課題抽出シート」(A4)に「資源」「仕組み」等シートに落とし込んでいく。落とし込みが終わり次第、次の事例検討を行っていく。		

- ・今後、各事業所より事例を提出もらっているため順次、事例検討を行い、課題を集めていく。
- ・事例検討と同時に、「課題抽出シート」も記入してもらい、部会で共有していく。

○愛歩の事例（ケース①）について課題抽出シート確認

- ・事例について、「変わった人」として済ますのではなく、地域の方にも知ってもらえると良いと思い、「1」に発達障害の理解を記入。

○ゆったり工房の事例（ケース②）について課題抽出シート確認

- ・家族がどこまで症状を受け止めているのかということで、家族の症状理解の必要性。
- ・GHでの生活が困難であるため、一般のアパート形式で管理人が在住型のアパートがあると良い。
- ・移動支援以外で、タクシーがもっと使いやすくなると良い。
- ・一番近くにいるヘルパー等、本人の特性を理解してもらうため、精神障害についての研修会の実施。
- ・「10」その他について、緊急時の体制、連絡手段の確保が出来るると良い。

※課題抽出シートには「課題」を具体的に記入できると比較検討がしやすくなる。

○障害者相談支援センターの事例（ケース③）確認・課題抽出シートの確認

- ・「課題」についての考え方について。目の前の課題を考えるのか、もしくは5年・10年後の課題も含めて抽出していくのか。

※「課題抽出」としての考え方として

→1年先の期間の課題として考えていく。

→課題抽出の方法について。具体性のない課題については、取り扱わない。共通認識としてあるものを課題としていく。

→抽出シート「1」～「10」については、目先の課題（1年先の課題）のものを記載。抽出シートには「その他」の枠を作り、長い目で見た時に問題となる課題を記載できると良い。

→今後、「事例発表」と「課題抽出シート」確認を1セットとして進めていくこととする。

3 その他

○今年度のケアマネ部会の検討内容（勉強会）について

- ・発達支援セミナーでは、発達障害の基礎について学ぶ予定。そのため、内容が重複しない内容を検討していく予定。
- ・発達障害について具体的に知りたいというニーズがアンケートに載っていれば、それを参考にしてもいいか。もしくは、「発達障害で困ったことはありますか」と意見を聞いてもいいか。

	<p>部会で学びたいテーマで実施するか。</p> <p>→アンケートについてはチェック式となっているため、具体的な内容についての記載はない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もう1度テーマについて聞き直してもいいかもしれない。 ・強度行動障害について、どのように対応したらいいのか分からない。市全体で取り組んで各事業所1名は参加してもらい、持ち帰ってもらうといいか。 ・強度行動障害の支援者資格取得のために、部会で研修を企画して実施することができるか。事業所で講師を招くには費用面で困難がある。 <p>→「資格取得」「加算」ということになると、勉強会自体のハードルが上がってしまうため、部会としては難しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「発達障害のVR体験」については、イメージしづらいこともあり、情報収集していく。 ・勉強会については、次回部会で再度検討予定とする。 <p style="text-align: right;">以上</p>
<p>今回確認事項</p>	<p>① 前回の振り返り</p> <p>② 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて</p> <p>③ その他 今年度のケアマネ部会の検討内容</p> <p>④</p> <p>⑤</p> <p>⑥</p>
<p>次回検討課題</p>	<p>① 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて</p> <p>② その他</p>
<p>次回開催日時</p>	<p>令和4年7月26日（火） 14：30～</p>
<p>次回会場</p>	<p>障害者福祉センター 大会議室</p>

日進市障害者自立支援協議会 専門部会出席者名簿

専門部会名	第3回	ケアマネジメント部会
日 時	令和4年6月28日（火）14時30分～16時00分	
会 場	障害者福祉センター 大会議室	

専門部会員	その他参加者
① 松尾 俊明 (欠)	
② 脇本 浩行 (欠)	
③ 興梶 精視	
④ 椎葉 梢	
⑤ 改田 真美	
⑥ 神谷 真里	
⑦ 熊谷 豊	

(市職員)

① 野村 圭一 (欠)	② 櫻木 順子
③ 島津 ありさ (欠)	④ 稲葉 亮
⑤ 大橋 志乃	

(事務局)

① 市川 英子	② 西岡 きくの
③ 橋本 花実	④ 福田 有輝
⑤ 野々山 勝己	

日進市障害者自立支援協議会 専門部会実施報告書

報告者	野々山 勝己	市確認欄	
専門部会名	第4回	ケアマネジメント部会	
日時	令和4年7月26日(火) 14時30分 ~ 16時30分		
会場	障害者福祉センター大会議室		
出席者	部会員 5名	市職員 4名	事務局 4名
	※出席者名簿は、別添のとおり		
傍聴者	有り (名: 別添名簿のとおり) ・ <input type="checkbox"/> なし		
報告・検討 の内容	1 前回の振り返り		
	2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて		
	3 その他		
	今年度のケアマネ部会の検討内容について		
提出資料	別添のとおり		
主な意見	1 前回の振り返り ・「にも包括」についての取り組みについて(事例確認) ・今年度のケアマネ部会の検討内容について(勉強会)		
	2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて ○事例検討方法について ・1事例20分程で確認。 ・事例検討手順として、①読み込み→②困りごとに対する説明→ ③事例の質問(質問は課題抽出を意識した内容で)→④課題抽出 ○あんじゅの事例(ケース④)		

【困っていることについて】

- ・区分6、要介護5の寝たきりの方。本人の意向が強すぎて、身体の状態とケアの状態が合っていない。
- ・血圧の薬があるが、自分でコントロールして服用しており、内服支援が難しい。
- ・SS、デイサービスの利用の拒否がある。そのため、緊急時の支援がないため、その時その時での対応が必要となっている。
- ・ナイトケア中でもヒステリック気味に大きな声を出すため、近所からのクレームがある。

【質問】

- ・アパート経営をしていたが、夫がしている。お金では困っていないか。
→足りないサービスは自費で利用。金銭的には困っていない。
- ・認知症状はないか。
→呂律が回らなかったため、病院検査。脳の萎縮あり。記憶力はしっかりしているため、自分の意志が通らないと泣き叫ぶ。
- ・次男と同居しているが、関係性は。
→関係は良好。本人は可愛がっている。介護には関わっていない。
- ・本人は家族に介護してもらいたいのか。
→本人が夫への暴力あり。SSやデイサービスの利用拒否あり。自宅でヘルパーを利用して過ごしたい。夫の支援ありきの在宅生活となっている。夫は、介護を辞めたいと言っている（現状では、夫が支援をしないと在宅生活はできない）

【課題抽出】

- ・医療連携体制について、服薬支援だけでなく精神科の支援が必要ではないか。
→病院受診した時、もっと詳しく検査ができるとよかった。
- ・家族支援について、夫の介護疲れがあるため、次男の支援がもっとあるとよい。
- ・事業所との連絡方法は。
→ヘルパー事業所を6ヶ所利用している。そのため、情報共有を写メを取り、情報共有している。
- ・高齢者では、電子手帳でやり取りしている。障害でも使用してもいいか。電子手帳だと直接ドクターからも意見をもらえるため便利。しかし、十分に活用できていない状況となっている。

○障害者相談支援センターの事例（ケース⑤）について

【困っていること】

- ・65歳ではあるが、身体は動く。高次脳機能障害による短期記憶の低下がある。

- ・他の人に暴言がある。
- ・仕事にやりがいを持っているが、仕事がなかなか見つからない。

【質問】

- ・ピアサポートの活用は、本人の希望か。
→本人も他の高次脳機能障害の方の話が聞きたい希望。やり取りができると精神的に安定すると思われる。
- ・訪問診療を利用しているが、通院していた時の困りごとは。
→薬局に寄ることを忘れてしまう。採血等上手くできないと激高する。本人希望で訪問診療を契約。介護保険に切り替えた時、障害サービスのような支援をしてもらえるのか心配がある。
- ・通院等介助（院内の付き添い・対応）を利用できるといいか。
- ・仕事に就いても続かない状況であるため、アクトに繋げて本人も障害を開示するか、もしくは一般就労をするのか。
→仕事に対するプライドがある。A型は年齢的に利用が出来ずB型はプライドもあり利用できない。グループホーム利用者が増えてきて、「なんで障害者と一緒に生活しているのか」と言う。
- ・家族状況は。
→離婚しており、妻子いるが音信不通。名前を憶えていない。本人家族とも繋がりが少ない。
- ・心筋梗塞をした時、手術を行ったのか。
→手術はしていない。カテーテルで今は様子を見ている。家族も遠方であり、本人に対応することはできない。

【課題抽出】

- ・障害者枠の就労について、理解促進が必要と思われる。
- ・介護支援専門員との連携についてどんな仕組みがあるといいか。
→ケアマネが障害サービスについての知識が十分でない。障害サービスについて勉強してもらえると移行しやすくなる。
- ・介護サービスと障害サービスの違いについて勉強できるといい。
- ・包括との連携実績はあるが、ケアマネとの連携がない。実績ができるともっとスムーズに連携ができる。
- ・地域福祉課でケアマネ研修は実施（1回/年）している。認知症のケースが多い。
- ・自立支援協議会で医療機関がリスト化できるといい、との意見があった。受診しやすい等、協力的な病院としてまとめられると資源として活用しやすくなる。

○障害者相談支援センターの事例（ケース⑥）について

【困っていること】

- ・B型事業所を利用中。他の利用者の注意が、自分に言われている感覚になり、通うことが出来ない。
- ・年金受給をしているが、打ち切られたら・・・と不安になっている

るため、訪問看護を利用して話を聞いてもらっている。

- ・金銭管理について、お金を使いすぎる。
- ・母と2人暮らし。将来の生活に対する不安が大きい。

【質問】

- ・薬の配達とは。
→訪問薬剤管理が利用できなかったので薬局がボランティアで届けてくれている。
- ・訪問看護の精神科の看護師か。
→訪問しているのは、精神科の看護師を利用している。
- ・母親との関係は。
→母親は本人に対して協力的。
- ・薬の管理は。
→母親が管理している。
- ・アパートに住んでいるが、賃貸か。
→賃貸アパート。一人で住むことは難しいか。障害厚生年金29万円（2ヶ月）もらっているので、かなり助かっている。
- ・高額な飲食費の浪費について、どこからお金が入ってきたのか。
→どこから収入があるのかは不明。
- ・自閉スペクトラム診断日はいつか。
→不明。
- ・福祉的サービスにつながっていなかったのでは。
→過去に就労移行支援を利用していた。
- ・家族との関係は。
→現在は妻との関係は全くない。
- ・アルコールについて、治療の必要性は。
→現在は、主に双極性障害での治療。アルコールは飲んでいない。
- ・一人暮らしができる方なのか、もしくは一人暮らしは難しいため、GHを利用する方か。
→一人で家事等することは難しい。
- ・ヘルパーを利用すれば生活できるのか。
→ヘルパーを利用して服薬管理出来れば可能。一人になることに対する不安が大きい。
→お金の使い方について、令和3年より日常生活自立支援事業利用している。年金について、本人がお金を使うことが出来ないように、母親の口座に移している。お小遣い程度の金額を自分で管理している。
- ・本人はどのような生活を希望しているのか。
→現在は、B型を利用しているがA型・一般就労の希望あり。
- ・A型・一般就労で働くために、必要となることは。
→周囲のことを自分のこととして捉えてしまい影響を受けてし

まうため、理解のある職場で働きたい。ただし、週5日働くことは難しい。

【課題抽出】

- ・就労について。コロナ禍で色々な就労の形がある。週5日働ける体力が無くても、在宅勤務ができる場所を見つけるか、作っていくのか。福祉的就労以外で仕事が見つかるといい。
- ・精神障害のある方。ピアサポートの活用。本人の落ち着く場所を探す。自殺予防対策も兼ねてできるといい。

※今回3事例検討し、今までで6事例検討することが出来た。

8月に3事例検討後、9月に課題抽出シートの振り返りを予定。必要があれば、事例検討の2巡目に入る。

3 今年度のケアマネ部会の検討内容（勉強会）について

- ・VR体験について。内容は非常に分かりやすく実施できると良いかと思うが、予算が高額であり実施が難しい。
- ・昨年度、発達支援セミナーで講演していただいた笹森先生（本人も発達障害があり、お子さんも発達障害がある）は、昨年度は、保護者の立場での講演。支援者としても活躍されていることから支援者向けとして講演を実施できるといいが、大変忙しい先生であるため、スケジュールを抑えることができるか。
- ・さわらび園（興梠さん知り合い）利用者の方（22・23歳）。話はしていただけたと思うが、話す内容については、こちらで考えていかないといけない。質問形式でのやりとりになる。学校生活での大変だったこと等質問できるといい。勉強会について、どのような形式で行うのか。
興梠さんより、一度確認をしていただく予定。
- ・笹森先生は、テレビ出演もされている方。90分・120分と時間指定すれば、内容も調整してもらえる。
- ・ネットワーク勉強会は、シリーズで開催したこともあったし、1回開催もあった。内容によってその時々で対応している。
- ・発達支援セミナーは、12月開催。内容が重複しないように調整していく。開催時期、会場の確認。
- ・次回部会で内容を確認予定とする。

4 その他

- ・みんなの勉強会「みんなで学ぼう。ネットトラブルと交通安全」
8月2日（火）、市民開会小ホールにて開催。
空きあり。パトカー来場予定。

以上

今回確認事項	①	前回の振り返り
	②	精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて
	③	ケアマネ部会（勉強会）の検討
	④	
	⑤	
	⑥	
次回検討課題	①	精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて
	②	ケアマネ部会（勉強会）の検討
次回開催日時	令和4年8月23日（火） 14:30～	
次回会場	障害者福祉センター 大会議室	

日進市障害者自立支援協議会 専門部会出席者名簿

専門部会名	第4回	ケアマネジメント部会
日 時	令和4年7月26日（火）14時30分～16時30分	
会 場	障害者福祉センター 大会議室	

専門部会員	その他参加者
① 松尾 俊明 (欠)	
② 脇本 浩行 (欠)	
③ 興梠 精視	
④ 椎葉 梢	
⑤ 改田 真美	
⑥ 神谷 真里	
⑦ 熊谷 豊	

(市職員)

① 野村 圭一	② 櫻木 順子
③ 島津 ありさ	④ 稲葉 亮 (欠)
⑤ 大橋 志乃	

(事務局)

① 市川 英子 (欠)	② 西岡 きくの
③ 橋本 花実	④ 福田 有輝
⑤ 野々山 勝己	

日進市障害者自立支援協議会 専門部会実施報告書

報告者	野々山 勝己	市確認欄	
専門部会名	第5回	ケアマネジメント部会	
日時	令和4年8月23日（火）14時30分～15時45分		
会場	障害者福祉センター大会議室		
出席者	部会員 4名	市職員 3名	事務局 5名
	※出席者名簿は、別添のとおり		
傍聴者	有り（ 2名：別添名簿のとおり） ・ なし		
報告・検討 の内容	1 前回の振り返り		
	2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて		
	3 その他		
	今年度のケアマネ部会勉強会について		
提出資料	別添のとおり		
主な意見	1 前回の振り返り ・「にも包括」についての取り組みについて（事例確認） ・今年度のケアマネ部会の検討内容について（勉強会）		
	2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて ○事例検討について（アクト：ケース⑨） 【困っていることについて】 ・現実の世界とスマホの世界とのギャップに悩む。 ・スマホの課金やYouTubeでの支払い金額が大きい。 ・会社を無断欠勤している。 ・同僚の昇進や結婚で自分との格差を感じている。		

【質問】

- ・金銭管理はどうしているのか。
→20歳までは家族管理であったが、現在は本人管理。
- ・柄の悪い人とどのようにつながったのか。
→SNSで自分の車ことを載せたら「いいね」をもらえた。そこから柄の悪い人と付き合い始めた。
- ・グループホーム利用拒否の理由は。
→母子分離を考えてグループホームの利用を提案したが拒否。出て行くのは母と弟だと言う。
- ・父親の関係性は。
→トラックドライバーで週1回しか帰ってこない。父は本人に関心が無いようで協力は得られない。
- ・職場は障害者枠での採用か。
→障害者枠での就労で検品の仕事をしている。
- ・会社で本人の接し方について改善をしたが、会社・上司の理解はどうか。
→大きい会社であり、障害に対して理解がある。上司の理解もあり、指導で働きやすい職場環境を作っている。但し、プライベートで問題があるので通うことが出来ていない。
- ・柄の悪い人との付き合いの割合はどれぐらいか。
→週末に会っており、頻度としては多い。警察沙汰になってはいないが起きてもおかしくない。
- ・学校でのお金やスマホの指導については。
→お金やスマホの指導は行っていたかと思うが、どこまでしていたかは分からない。学校はスマホ持ち込み禁止だった。卒業してこのような問題が出てきた。
- ・本人が柄の悪い人と付き合っているという理解は。
→本人は柄の悪い人と付き合っていると思っていない。柄の悪い人は本人を障害者として扱っていないので居心地がいい。しかし、金銭搾取をされている様子。その人達は、20代前半のグループか。
- ・携帯料金についてどれくらい出しているか。
→収入(20万はある。収入の半分は携帯代。5万円は車代で消えている。収入は、ほぼ全額使い切っている。
- ・抑うつ診断について。
→22歳の時、自分で心療内科受診。薬は漢方を服用。
- ・弟の支援は。
→相談支援センターでの支援がある。知的障害B判定。
- ・お母さんの養育能力は。
→グレーゾーンで養育能力は弱いと思われる。
- ・家族は周囲からどのように見られているか。大声が聞かれたり

していないか。

→田舎なので近所に迷惑とはなっていない。

- ・お金が足りなくなってしまったことは。

→借金はしていない。しかし全額使い切っている状態。

【課題抽出】

- ・ピアサポートについて。柄の悪い人達ではなく、本人の居心地の良いところが見つかるという。

- ・軽度の障害のある人が集える場所がない。障害受容が出来ていないので今の問題行動につながっている。生きがいや楽しみ等軽度の人たちの集まれる場所があると良い。

- ・家族を支援する体制がない。家族の養育する力が低い時、家族支援ネットワークを作っていく必要がある。

- ・困難事例の対応について、相談支援センターの機能をよりよくしていくことが出来るとよい。

→子どもの機関・生活支援・就労などについて、その方を中心とした関係者で支援していく。情報共有は行っているが役割分担が曖昧なこともあり、しっかりと支援できるとよい。このケースなら、日常生活自立支援事業や後見人を利用する。しかし、家族がいるとそのようなサービスにつながらないケースもある。支援は、基幹センターだけでは難しい。

→重層的体制支援で、重なり合って支援ができると別の支援方法が出てくると思われる。

→仕事であれば就労部会に問題を上げていくなどしてネットワークを作っていく。今まで個人でネットワークを作ってきたが、それだけでは限界となっている。

→相談支援をサポートできる体制があるとよい。

※今月は1事例。次回2事例検討予定。

3 今年度のケアマネ部会の検討内容（勉強会）について

- ・発達障害のある方から直接、話を聞きたいということでさわらび園を卒業された方を講師に迎えて母親研修会を実施したことがある。突然の質問は、回答が難しいため事業所から質問を確認して事前に把握できるとよい。

- ・講演内容の流れとして、「発達障害について」→「さわらび園の取り組み、関わり内容の説明（園長）」→「本人からの話」という内容はどうか。

- ・講演会前半では、園長・保護者からの話で「幼児期」「学齢期」の様子について園での職員とのやり取りが聞けるとよい。

- ・今回のケースは、上手くいったケースとなる。どのように関わるとこのようなケースになるのか、という話を保護者から話が聞けるとよい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・園の取り組みだけでも、親の取り組みだけでも支援はできない。園と親の両方から話が聞けるとよい。 ・園として親にお願いしていること、親から園にお願いしていることがあると思うのでそのあたりの話が聞けるとよい。 ・講演内容について興梠さんより、さわらび園に相談予定。 ・会場については、市民会館小ホール予定。1/14（土）午前、2/4（土）午前・午後、3/11（土）午後を仮予約。 <p style="text-align: right;">以上</p>
今回確認事項	① 前回の振り返り
	② 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて
	③ ケアマネ部会（勉強会）の検討
	④
	⑤
	⑥
次回検討課題	① 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて
	② ケアマネ部会（勉強会）の検討
次回開催日時	令和4年9月27日（火） 14：30～
次回会場	障害者福祉センター 大会議室

日進市障害者自立支援協議会 専門部会出席者名簿

専門部会名	第5回	ケアマネジメント部会
日時	令和4年8月23日(火) 14時30分～15時45分	
会場	障害者福祉センター 大会議室	

専門部会員	その他参加者
① 松尾 俊明	堀口さん(こころ)
② 脇本 浩行 (欠)	森田さん(愛歩)
③ 興梶 精視	
④ 椎葉 梢	
⑤ 改田 真美 (欠)	
⑥ 神谷 真里 (欠)	
⑦ 熊谷 豊	

(市職員)

① 野村 圭一	② 櫻木 順子 (欠)
③ 島津 ありさ (欠)	④ 稲葉 亮
⑤ 大橋 志乃	

(事務局)

① 市川 英子	② 西岡 きくの
③ 橋本 花実	④ 福田 有輝
⑤ 野々山 勝己	

日進市障害者自立支援協議会 専門部会実施報告書

報告者	野々山 勝己	市確認欄	
専門部会名	第6回	ケアマネジメント部会	
日時	令和4年9月27日(火) 14時30分 ~ 16時00分		
会場	障害者福祉センター大会議室		
出席者	部会員 7名	市職員 5名	事務局 5名
	※出席者名簿は、別添のとおり		
傍聴者	有り (1 名 : 別添名簿のとおり) ・ なし		
報告・検討 の内容	1 前回の振り返り		
	2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて		
	3 発達障害に関する研修会について		
提出資料	別添のとおり		
主な意見	1 前回の振り返り ・「にも包括」についての取り組みについて(事例確認) ・発達障害に関する研修会について		
	2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて ○事例検討について(レジデンス日進: ケース⑦) 【困りごとについて】 ・本人の欲求を実現させるためにどのようにしたらいいのか。 本人のイメージと現実が違う。 【質問】 ・本人の一人暮らしのイメージとは。		

→一人暮らしに華やかなイメージがある。家事等、大変なことに対するイメージがっていない。

・ADLは。

→食べることや整容は自立、料理はできない。カップラーメンを3食食べる状況。

・一人暮らし体験とは。

→グループホーム隣で2泊3日で泊まりこんだ。コンビニでの買い物はできる。

・金銭管理や収入状況は。

→年金は月10万弱。管理は職員が行っている。

・生活リズムは。

→基本的な生活リズムはできている。日中活動は週5日出かけている。

・感情コントロールが苦手だが、どのようなことで怒るのか。

→挨拶をして返答してくれないことや指図されることで怒る。

・安心してコミュニケーションができる人はいるのか。またキーパーソンは。

→本人より年上の方や一緒に生活をしている方には落ち着いて接することができる。しかし特定の人物は特にいない。

・鉄工所勤務時は、障害者枠での勤務か。

→一般就労で働いていた。

・一人暮らしの期間は。

→数年間一人暮らしをしていた。

【課題抽出】

・法人内での支援だけで本人を満足させることは難しいが、相談員と連携しながら、本人のために意思決定支援を続けて行かないといけない。

・空き家事業を利用して、一人暮らしのために空き屋を利用して体験利用していく。

・ピアサポートを利用できるといい。

○事例検討について（ハーモニー：ケース⑧）

【困りごとについて】

・本人の困りごととお母さんの困りごとが違う。お母さんの要望に応えようとする本人が落ち着きを無くしてしまう。

【質問】

・自宅での食事は。

→時間が定まっていない。朝、慌てて食事の準備をして食べる状態。父は外食が多い。

・偏食がある方か。食べている物は。

→ハンバーガー・肉類が多い。食べない時は食べていない。

- ・本人の体型、栄養状態は。
→お腹が出ている。栄養状態は足りている。
- ・両親の関係は。
→母が父を怖がっている。父は本人支援をしており、良き父親。
- ・学校での食事の様子は。
→母が言うには、学校では食べていたとのこと。しかし、実際は、食べたり食べなかったりだった。
- ・食べない理由は。
→生活リズムを整えることとして、朝・昼・夕食の食事記録をつけることを提案した。しかし、記録をつけることに対して理解してもらえなく、記録も1ヶ月が限界だった。
- ・事業所ではどのように食事をしているのか。
→自宅で使用しているものを用意してもらい、食べてもらうことをした。母は白飯を食べれると思っているが、実際は無理やり食べさせている状態。
- ・TASUC（タスク）とは。
→行動療法（個別療育）。
- ・母と弟の関係は。
→弟は県外で一人暮らし。しかし、弟が帰って来ると本人をほったらかしで弟に色々言うてしまう。母はアスペルガーの傾向があるかもしれない。

【課題抽出】

- ・母の支援のためにお母さんと話をする機会があるといい。
- ・お父さんとも一度話をする機会があるといい（お母さんにそのことを伝えると拒否がある）
- ・本人の自立のために一人暮らしを体験できるといい。
- ・お母さんに何が虐待になるのか勉強してもらおう機会があるといい（本人の意志を無視して連れまわしていることなど）
- ・一週間のスケジュールが一杯のため本人の休みをつくる。
- ・下痢等があるため、病院受診をする。

※次回の部会で課題抽出シートを整理予定。

3 発達障害に関する研修会について

- ・興梠さんより、今回の研修会についてさわらび園に行き内容を説明いただく。

【説明内容】

- ・前半では、「幼児期から大人に至るまでライフステージに合わせた支援（家族支援）～家族から支援者に求めること～（仮タイトル）講演＋対談形式
- ・幼児期から学齢期、大人に至るまでのプロセスの説明。

- ・ 幼児期の子どもたちの様子や家族の心情などを含めて、当事者支援は無論、家族支援が大切であることを知る。
 - ・ 対応によっては現在の卒園児ではなかったかもしれない。
 - ・ 講師 さわらび園園長：山本智恵さん、さわらび園卒園児保護者 幅尚子さん、中村芳奈（かな）さん
 - ・ 後半では「大人になった子どもたち」（仮タイトル）対談・質問形式
 - ・ さわらび園時代、学齢期等の思い出
 - ・ 学齢期に楽しかったこと、嫌な思い出
 - ・ 前もって集計した質問を抜粋してもらい、その質問について対談形式で答えていただく。
 - ・ 会場からの質問に対して、どのように答えていくのか、その様子を聴講者がどのようにとらえていくか。
 - ・ 聞き手 さわらび園職員：中野則恵さん
語り手 さわらび園卒園児：幅拓也さん、加藤翔太（しょうた）さん、武田悠暉（ゆうき）さん
- 【内容についての確認・追加について】**
- ・ 研修会では、施設・事業者が家族支援の大切さについて自覚をもってもらえる研修会にしたい。
 - ・ 子どもの頃から支援がしっかりとできていたなら共依存にならなかったという方がいる。
 - ・ 子どもの障害特性を踏まえたアプローチ方法の話を知ることができる。
 - ・ 参加対象者についての確認。元々はアンケート結果を受けての研修会であるが、事業者に限らず、本人・家族も参加したいかもしれない。
→本人または家族（誰でも参加可能ということ）が参加することとなるとメッセージが薄れてしまうのではないか。
→講演する立場からすると事業者向けと親・本人で分かれた方がいい。両者が参加するのであれば必ず講師への確認が必要。
→上記内容を含めて、今回は事業者対象で開催とする。
 - ・ 内容について、講師の方には事業所に向けた良い話だけでなく忠告も含め、きついアドバイス等のメッセージを伝えていただけると良い。
 - ・ 開催日は令和5年2月4日（土）午前中。当日朝の準備かもしくは、前日に小ホールで会場が確保できれば前日準備とするか後日確認予定。
 - ・ 講師の方が多いため、講師控え室が別で必要があるのか確認とする。

以上

今回確認事項	①	前回の振り返り
	②	精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて
	③	発達障害に関する研修会について
	④	
	⑤	
	⑥	
次回検討課題	①	精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて
	②	発達障害に関する研修会について
次回開催日時	令和4年10月25日（火） 14:30～	
次回会場	障害者福祉センター 大会議室	

日進市障害者自立支援協議会 専門部会出席者名簿

専門部会名	第6回	ケアマネジメント部会
日 時	令和4年9月27日（火）14時30分～16時00分	
会 場	障害者福祉センター 大会議室	

専門部会員	その他参加者
① 松尾 俊明	柴田 菜月（実習生）
② 脇本 浩行	
③ 興梠 精視	
④ 椎葉 梢	
⑤ 改田 真美	
⑥ 神谷 真里	
⑦ 熊谷 豊	

（市職員）

① 野村 圭一	② 櫻木 順子
③ 島津 ありさ	④ 稲葉 亮
⑤ 大橋 志乃	

（事務局）

① 市川 英子	② 西岡 きくの
③ 橋本 花実	④ 福田 有輝
⑤ 野々山 勝己	

日進市障害者自立支援協議会 専門部会実施報告書

報告者	野々山 勝己	市確認欄	
専門部会名	第7回	ケアマネジメント部会	
日時	令和4年10月25日(火) 14時30分 ~ 16時00分		
会場	障害者福祉センター大会議室		
出席者	部会員 5名	市職員 4名	事務局 4名
	※出席者名簿は、別添のとおり		
傍聴者	有り (名：別添名簿のとおり) ・ <input type="checkbox"/> なし		
報告・検討の内容	1 前回の振り返り		
	2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて		
	3 発達障害に関する研修会について		
	4 11月・12月の部会について		
提出資料	別添のとおり		
主な意見	<p>○10月より介護福祉課障害福祉係：稲葉さんに替わり岩城さん着任。</p> <p>1 前回の振り返り ・「にも包括」についての取り組みについて（事例確認） ・発達障害に関する研修会について</p> <p>2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて ○9事例の検討が終了。課題となるキーワードについて抽出。キーワードをまとめていき、今後のサービスに結びつけていく。 課題抽出シート「1」～「10」より「課題」「キーワード」</p>		

を検討。

○「1」地域住民への理解促進・普及啓発について

- ・「障害」についての普及・啓発が足りない。理解促進のため講演会等の開催。
- ・障害者があたり前となる生活についての理解が得られていない。民生委員・区長等、地域の核となる方への連携作り。
- ・啓発として自治会への勉強会。精神障害の方が生活において何に困っているのか、という投げかけができると良い。ミニ講座等開催して地域に発信していく。
- ・電動車椅子利用者がいるが、店員が理解してもらうために当事者に声を掛けてもらえると良い。
- ・当事者の困りごとを地域でサポートしていくことができると良い。

○「2」家族支援について

- ・愛歩では、家族と面談をしている。家族を含めてトータルの支援が必要。
- ・大変な状況にも関わらず、一緒に住んでいる兄弟姉妹関係が見えない。兄弟姉妹を対象とした話し合いができると良い。また兄弟姉妹に支援してもらう、関わってもらえると良い。
- ・実際にあるが、兄弟会のようなものがあると良い。兄弟だからこそ本人・親へなかなか言うことのできないことがある。
- ・発症した後、正しく理解するまでに時間が掛かる（ちゃんと育てることができなかつた等）症状について、きちんと説明できる体制が定期的にあると良い。
- ・家族会の高齢化が続いている。支援できる体制があると良い。
- ・家族が困っていると、事業所もしくは相談員に相談することになる。家族は、事業所に相談すれば何とかしてくれると思っいるところがある。
- ・家族支援については、事業所や相談員がしているのが現状であるが事業所・相談員で抱え込まなくて市へ相談してもらえると良い。
- ・家族支援は、時間外での支援も必要。家族支援もその職員の人間性によるところがある。
- ・家族の中には、自分たちの困りごとに気づいていないこともある。
- ・親に向けて研修会等実施すると何か要望が出てくると思われる。
- ・家族は、問題を抱え込んで相談するところが少ないない。気楽に話すことのできる場所を作ったり、発信できる方法があると良い。
- ・障害者当事者のピアサポートがあると良い。
- ・当事者家族が会を作るのではなく、第3者が無批判で話を聞く

ことができる場所があると良い。

- ・兄弟姉妹が気持ちを出せれる場所があると良い。

○「3」住まいの確保支援について

- ・グループホームは古い。グループホームを出てから、そこから一人暮らしをしていく場所が必要という流れになっている。
- ・県の住宅支援。身体障害者の不動産の物件情報のサポートはあるが、精神の方へのサポートが少ない。精神の方は1人暮らしをして発症しているため、精神の方への物件紹介は壁がある。
- ・包括ケアシステムの中に不動産で中心となってくれる人がいると支援しやすい。

→障害がある方・生活保護の方は、地域福祉課に設置されている「暮らしサポート窓口」で部屋等物件探しを支援してくれる。暮らしサポート窓口より情報をもらっていることもある。

- ・暮らしサポート窓口は生活困窮が主だが、誰でも利用可能。

→（暮らしサポート窓口が十分認知されていないこともあり）

仕組み・制度として活かしきれていないところがある。

→国より、重層的体制整備事業（高齢者・子ども・障害者を一体的に支援）進めていくことになっている。体制が整ってくると複雑な問題が1つの窓口で解決していくことができる。

○「4」社会参加就労等支援について

- ・色々な形態での仕事が出てきている。エスプールでは、企業の社員として雇用して就労する仕組みがある。
- ・趣味・特技を活かして就労する。例えば、絵を描いてもらう、というシステムで賃金がもらえる。在宅で絵を描いて就労できるという仕組みがある。
- ・法定雇用率を達成するために、どのように採用するのかということも企業で分からないこともある。
- ・職場に行くまで1人で公共機関に乗れない・運転できない方もいるので、この問題が解決できると就労しやすくなる。

3 発達障害に関する研修会について

○チラシ作成について

- ・テーマは10月末までにさわらび園より提出予定。
→テーマが決まり次第、チラシに反映していく。
- ・チラシに参加希望欄・質問欄を作り、チラシを作成。次回部会時にチラシ（案）を確認し、その後、配布予定。
- ・さわらび園がどのような施設なのか事業内容・活動内容についての紹介文を掲載。
- ・質問する卒園児の人となりがあると質問しやすいため、プロフィールを掲載。
- ・12月中旬までに質問を取りまとめて、さわらび園に提出予定。

	<ul style="list-style-type: none"> ・卒園児がどのような方であるのか大まかな情報があるといい。 (例：年齢、就労何年目か、どのような発達障害であるのか) →個人情報に関係もあるため、どこまで情報を提供していくのかは、さわらび園に確認予定。 ・出欠確認は12月中旬締め切りとするが、1月末までは受け付けとする。 <p>4 11月・12月部会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月22日(火)予定であったが、スケジュール変更。 →11月29日(火) 14:30～障害者福祉センター大会議室にて予定。 ・12月20日(火)予定であったが、同日、障害者差別解消法講演会予定のため変更。 →12月部会は休みとするか、もしくは12月20日以外の日で調整していくか後日連絡予定。 <p style="text-align: right;">以上</p>												
今回確認事項	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">①</td> <td>前回の振り返り</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">②</td> <td>精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">③</td> <td>発達障害に関する研修会について</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">④</td> <td>11月・12月の部会について</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">⑤</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">⑥</td> <td></td> </tr> </table>	①	前回の振り返り	②	精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて	③	発達障害に関する研修会について	④	11月・12月の部会について	⑤		⑥	
①	前回の振り返り												
②	精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて												
③	発達障害に関する研修会について												
④	11月・12月の部会について												
⑤													
⑥													
次回検討課題	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">①</td> <td>精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">②</td> <td>発達障害に関する研修会について</td> </tr> </table>	①	精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて	②	発達障害に関する研修会について								
①	精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて												
②	発達障害に関する研修会について												
次回開催日時	令和4年11月29日(火) 14:30～												
次回会場	障害者福祉センター 大会議室												

日進市障害者自立支援協議会 専門部会出席者名簿

専門部会名	第7回	ケアマネジメント部会
日 時	令和4年10月25日(火) 14時30分～16時00分	
会 場	障害者福祉センター 大会議室	

専門部会員	その他参加者
① 松尾 俊明 (欠)	
② 脇本 浩行	
③ 興梠 精視	
④ 椎葉 梢	
⑤ 改田 真美	
⑥ 神谷 真里	
⑦ 熊谷 豊 (欠)	

(市職員)

① 野村 圭一 (欠)	② 櫻木 順子
③ 島津 ありさ	④ 岩城 佳寿
⑤ 大橋 志乃	

(事務局)

① 市川 英子	② 西岡 きくの
③ 橋本 花実	④ 福田 有輝 (欠)
⑤ 野々山 勝己	

日進市障害者自立支援協議会 専門部会実施報告書

報告者	野々山 勝己	市確認欄	
専門部会名	第 8 回	ケアマネジメント部会	
日 時	令和 4 年 1 1 月 2 9 日 (火) 1 4 時 3 0 分 ~ 1 6 時 0 0 分		
会 場	障害者福祉センター大会議室		
出席者	部会員 4 名	市職員 4 名	事務局 5 名
	※出席者名簿は、別添のとおり		
傍聴者	有り (名 : 別添名簿のとおり) ・ <input type="checkbox"/> なし		
報告・検討 の内容	1 前回の振り返り		
	2 発達障害に関する研修会について		
	3 1 2 月の部会について		
	4 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて		
提出資料	別添のとおり		
主な意見	1 前回の振り返り ・「にも包括」についての取り組みについて (課題抽出シート確認) ・発達障害に関する研修会について ※時間の都合で検討順序を変更		
	2 発達障害に関する研修会について ・ 1 1 / 2 1 に興梶さん・市川センター長・西岡さん さわらび園 訪問し、打合せを行う。 ・チラシの内容を確認。 ・参加申込み受付 : 1 / 2 7 (金) まで。		

- ・質問項目受付：12/16（金）まで。
- ・参加対象者：学校教育関係者等追加→興梠さんより、11/25に会議があり、チラシ配布済み。
- ・対象者が「日進市内の障害福祉サービス事業所」としているが、他市町からの申し込みがあった際、定員に余裕があれば受け付けていく。
- ・2/3（金）午後に小ホールの会場準備予定。
- ・タイムスケジュールについて
第1部 10：00～10：50
10分間休憩
第2部 11：00～11：50
10分間質疑応答
- ・事前にもらった質問については、講演会の中で答えていただく。講演会の中で答えることができなかった質問については、質疑応答の時間で答えていただく予定。
- ・卒園生の当日質問は難しいため、事前質問のみ答えていただく。
- ・興梠さんより、12/4に卒園生に依頼文を渡す予定。

3 12月の部会について

- ・12/20（火）13：30～15：00 障害者差別解消法講演会のため、別日で日程調整。
→12/21（水）14：30～障害者福祉センター大会議室にて予定。

4 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて

○「5」ピアサポートの活用について

- ・ピアサポートの活用方法としての現状報告あり（3点）。
- ・①ピアの方に話をしてもらおう（講演機会を作る）。ピアサポーターとして活動しやすいものとしては、リカバリーストーリーを話してもらうことが始めやすい（当事者・地域の方・民生委員等に話す）。自分の体験談を話すことができるようになってもらう。支援者が取り仕切るのではなく、ファシリテーターが進行できるようにすることが理想。
- ・ピアサポーターと当事者が話しをする場所があると良い（時間を持て余している人もいるため）。支援者がピアの方をしっかりと支えていくことが必要。
- ・地域に開放していくには、対応力が必要となるため、ファシリテーターの力をつけていく必要がある。
- ・②自助グループを開催して仲間作り。「トータスゆったり」では、夕食を作ったり、元気がない時にどのようにリカバリーするのか勉強をしている。仲間がほしいと思っている方・1人で生活

している方は、仲間ができるとよい。瀬戸市には、自助グループがあるが、これらの活動を有効活用できるとよい。

- ・自助グループを支援することにおいて大変になることは？
→時間外の支援となるため、活動に共感してくれる職員集団でないと発展していかない（18時定時としているが、20時までに行っている。勉強会は、支援者が入っている）
- ・夕食会の運営として、費用300円もらい、メニューは当事者で考える。買い出しは、職員で行う。会では、近況報告が充実している。当事者としては、話を聞いてくれるということ、皆の意見を聞きたいという方もいる。
- ・③個人として活動をしてもらう。サポーターと一緒に訪問して話を聞く→ただし、これはハードルが高い。

○「6」アウトリーチについて

- ・今回のケースでは、お母さんの思い（上手く言えないため）と本人の状態像にズレがある。本人が言葉にできないところをどのように汲んでいくのか。そのため、本人状況を正しく理解するために、支援者（事業所・相談員・保健センター等）が状況を正しく理解するために、定期的な家庭訪問をしていくことができるか。お母さんの発言だけで介入していくと十分な支援ができないため、家庭に入って、専門性を伝えていくことが必要か。
- ・高齢者の事業で傾聴ボランティアがある。精神の方でも支援として利用できる方法があってもよいか。
- ・精神障害者のアウトリーチ事業では、入院という形に頼らず地域で生活することを前提としている。地域との関係がない家族が例えば、医療機関に繋げる必要がある時、本人が受診を希望していないと医療機関と繋ぐことは難しい。サービスに繋がっていない家族を訪問する支援、継続して支援していくことができる支援作りが必要。未受診の方は、相談員と関係を作って医療等に繋げていくことになるが時間が掛かる。
- ・恐らくアウトリーチが必要な方は多いと思われるが、問題が表面化していない方が多いと思われる。そのため、アウトリーチするための手がかりを見つける手段を考えていかないといけない→親が定年退職した時が1つのきっかけになるか。
- ・どこに相談をしたらよいのか分からない人も多いと思われる。
- ・1つの問題だけで終わらない。アウトリーチだけでの支援では、難しい。何かが1つ繋がってくると支援の切り口が見つかるか。
- ・手がかりとして、当事者の「発信」は難しいかもしれないが、「受信」するアンテナを高くしておくことで問題としてアウトリーチしやすくなる。
- ・問題を「受信」できるように支援者（相談員・医療関係者）

	<p>だけでなく、その他の地域の方にもアンテナを高くしてもらえると支援しやすくなる。</p> <p>・次回部会では、「7」医療連携体制についてから検討予定。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
今回確認事項	① 前回の振り返り
	② 発達障害に関する研修会について
	③ 12月の部会について
	④ 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて
	⑤
	⑥
次回検討課題	① 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて
	② 発達障害に関する研修会について
次回開催日時	令和4年12月21日（水） 14：30～
次回会場	障害者福祉センター 大会議室

日進市障害者自立支援協議会 専門部会出席者名簿

専門部会名	第8回	ケアマネジメント部会
日時	令和4年11月29日(火) 14時30分～16時00分	
会場	障害者福祉センター 大会議室	

専門部会員	その他参加者
① 松尾 俊明 (欠)	
② 脇本 浩行	
③ 興梠 精視	
④ 椎葉 梢	
⑤ 改田 真美	
⑥ 神谷 真里 (欠)	
⑦ 熊谷 豊 (欠)	

(市職員)

① 野村 圭一	② 櫻木 順子
③ 島津 ありさ	④ 岩城 佳寿
⑤ 大橋 志乃 (欠)	

(事務局)

① 市川 英子	② 西岡 きくの
③ 橋本 花実	④ 福田 有輝
⑤ 野々山 勝己	

日進市障害者自立支援協議会 専門部会実施報告書

報告者	野々山 勝己	市確認欄	
専門部会名	第9回	ケアマネジメント部会	
日時	令和4年12月21日(水) 14時30分～16時00分		
会場	障害者福祉センター大会議室		
出席者	部会員 5名	市職員 4名	事務局 5名
	※出席者名簿は、別添のとおり		
傍聴者	有り(名:別添名簿のとおり) ・ なし		
報告・検討の内容	1 前回の振り返り		
	2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて		
	3 発達障害に関する研修会について		
提出資料	別添のとおり		
主な意見	1 前回の振り返り ・「にも包括」についての取り組みについて(課題抽出シート確認) ・発達障害に関する研修会について		
	2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて ○「7」医療連携体制について ・協議の場で、医者が部会に参加してもらえることができるのか。 →市では、参加してもらえない方を知らない。 ・利用者の個別ケースでは、主治医に依頼すれば参加もあるが、その他のケースでは医者が参加するケースはない。 ・医療連携において、ドクターが参加していないと意味がない		

のではないか。

- ・在宅での生活では、服薬が必須。薬剤師に薬を届けてもらっている。薬剤師と協力ができるとうい。
 - ・医療連携において、具体的に困った場面があるのか、ないのか。普段生活されている中で困ったことや入院・退院時の困りごとがあれば、具体的に知りたい。
→病院での相談窓口がワーカーになるため、ワーカーと繋がりができるかで違ってくる。ワーカーを知っているか、話ができるだけでも、ドクターと繋がりやすくなる。
 - ・退院時、サービスの準備の兼ね合いで入院をしてもらう状況が必要によってはある。事前に病院と調整できる関係にあれば良いと思うケースがあった。
 - ・措置入院は、窓口が保健所であるため保健所が主導で進める。
 - ・顔の見える関係だけでいいのか、もっと他に仕組みが必要ではないか。
 - ・退院前カンファレンスはいつもあるのか。
→入退院を繰り返している方では、こちらから退院カンファレンスを開いてほしいと言えば開催してもらえが繋がりがない病院・遠方の病院は困難となる。
 - ・退院後、通院することになれば退院した病院に通うのか、または違う病院に通うのか。
→最初は、退院した病院に通い徐々に地域の病院に移行していく。治療できる病院・できない病院がある。家族の意向もあるため、ケースによって異なる。
 - ・初診での病院受診において、予約を取るのに時間が掛かってしまう。
 - ・個々のネットワークで成り立っていることがほとんどである。医療連携体制があれば、連携がしやすくなる。システムと言う意味では危なっかしい。そのためのシステムを作ることができると良い。
 - ・地域移行のケースが少ない。病院での地域移行・地域定着も低い。他市町では、担当者（市・相談員）がパンフレットを作成してアウトリーチしているところもある。より仕組みとして整うと支援が楽になる。
 - ・最終的には、この病院に依頼すれば支援してもらえという仕組みができると良い。
 - ・高齢者の地域包括ケアシステムの中に「にも包括」を組み込んでいくのが現実的か。
- 「8」入退院支援について
- ・「7」と重複する内容か。
 - ・精神疾患で入院。しかし、内科で悪化してしまいその後、転院

を希望していたが、転院できなくて入院が長くなってしまったが、そのようなケースはあるのか。

→精神科だけでは対応ができない。転院して治療することとなる。骨折した方で当病院では対応できないと言われた。

- ・精神科も診れ、内科・整形外科など診れる病院が少ないため苦勞する。全体を治療してもらえるところがあると良い。

○「9」関係職員に対する研修

- ・ヘルパーやケアマネとの連携が多い。障害サービスの理解促進のため、研修が出来ればと思う。
- ・事業所、相談員個人だけでは限界がある。障害サービスについて疎い。福祉課、支援センターと気軽に繋がれるシステムがあると良いと思う。
- ・関係職員が「誰か」ということになる。分野（障害・高齢）を越えてそれぞれの分野の勉強をできると良い。
- ・「にも包括」の中に事例を共有できる機会があると良い。
- ・障害者相談支援センターでは、2ヶ月に1回事例検討会（奇数月第2金曜日）を実施。また、毎週のミーティングで個人ケースについて事例検討を実施。参加事業所は1ヶ所。もっと参加してもらえると良い。
- ・事例から地域課題を見つけていけると良い。
- ・上手くいった事例、上手くいかなかった事例を共有できること。共有して、参考になることを学び合えると良い。
- ・県の研修で「介護支援専門員との連携」の研修が追加される。「にも包括」構築においてその研修内容が参考になってくると思われる。

○「10」その他

- ・「緊急時の支援体制」→医療連携にも関わってくる。入退院時支援が参考になるか。
- ・「体験の場」→居室確保事業が利用できるが、ここ数年間は実績がない。グループホームでの体験利用が年間50日の支給決定があるため、そちらの利用となっている。他市町での緊急時や体験利用では、グループホームでの一室を市が確保している。空室でも利用料が入る仕組みとなっているため、そのような場所があると良い。緊急時でも安心して利用できる場所（医療機関・福祉サービス等）があると安心できる。
→どのような緊急時・内容があるのか。また頻度等確認できると良い。制度の狭間もあるため、障害・高齢分野を超えて共有できるシステムがあると良い。
- ・「親亡き後」「電子カルテ」→時間の都合により保留

3 発達障害に関する研修会について

	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシ配布について、12月上旬にメール・FAXで周知。 ・公立保育園にも周知する。 ○質問について 【園長先生に対して】 ・保護者との関係の築き方について、どのような対応をしているのか。 【保護者に対して】 ・職員の対応で良かったこと。 ・さわらび園以外でのコミュニティー以外で意識したこと。 ・親同士の関係について。 【卒園生に対して】 ・励みになったことやうれしかったことについて。 <ul style="list-style-type: none"> ・参加者の集まりが少ないこともあり、年明けに再度関係事業所へ周知予定。 ・部会員より、事業所へのとりまとめをお願いします。 <p style="text-align: right;">以上</p>												
今回確認事項	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20px; text-align: center;">①</td> <td>前回の振り返り</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">②</td> <td>精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">③</td> <td>発達障害に関する勉強会について</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">④</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">⑤</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">⑥</td> <td></td> </tr> </table>	①	前回の振り返り	②	精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて	③	発達障害に関する勉強会について	④		⑤		⑥	
①	前回の振り返り												
②	精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて												
③	発達障害に関する勉強会について												
④													
⑤													
⑥													
次回検討課題	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20px; text-align: center;">①</td> <td>精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">②</td> <td>発達障害に関する研修会について</td> </tr> </table>	①	精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて	②	発達障害に関する研修会について								
①	精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて												
②	発達障害に関する研修会について												
次回開催日時	令和5年1月24日（火） 14:30～												
次回会場	障害者福祉センター 大会議室												

日進市障害者自立支援協議会 専門部会出席者名簿

専門部会名	第9回	ケアマネジメント部会
日 時	令和4年12月21日（水）14時30分～16時00分	
会 場	障害者福祉センター 大会議室	

専門部会員	その他参加者
① 松尾 俊明	
② 脇本 浩行	
③ 興梠 精視	
④ 椎葉 梢	
⑤ 改田 真美 (欠)	
⑥ 神谷 真里 (欠)	
⑦ 熊谷 豊	

(市職員)

① 野村 圭一	② 櫻木 順子 (欠)
③ 島津 ありさ	④ 岩城 佳寿
⑤ 大橋 志乃	

(事務局)

① 市川 英子	② 西岡 きくの
③ 橋本 花実	④ 福田 有輝
⑤ 野々山 勝己	

日進市障害者自立支援協議会 専門部会実施報告書

報告者	野々山 勝己	市確認欄	
専門部会名	第10回	ケアマネジメント部会	
日時	令和5年1月24日(火) 14時30分 ~ 16時00分		
会場	障害者福祉センター大会議室		
出席者	部会員 5名	市職員 5名	事務局 5名
	※出席者名簿は、別添のとおり		
傍聴者	有り (名：別添名簿のとおり) ・ <input type="checkbox"/> なし		
報告・検討 の内容	1 前回の振り返り		
	2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて		
	3 発達障害に関する研修会について		
提出資料	別添のとおり		
主な意見	1 前回の振り返り ・「にも包括」についての取り組みについて ・発達障害に関する研修会について		
	2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて ・課題抽出シート確認が終了となったため、今後の日進市としての課題や取り組み内容について確認する。 ・課題抽出シートを確認したが、現状は課題の羅列となっている。課題分析をしてから、そこから優先順位をつけていけるとよい。分析と言うのは、例えば「普及啓発」についてなら具体的な取り組み内容まで検討していく。「住まいの確保」なら、広く周知		

というよりは、「管理会社」「不動産会社」へ普及啓発をしていく必要があるというように、具体的に内容を示せれるとよい。話し合いだけでは先に進むことができないため、比較的取り組みやすい内容から取り組むことができればと思う。

- ・問題として困ることが住居先。生活する力を持っている人も多いが、1つの壁になるのが住居となる。支援の必要性は住むところと思う。
- ・当事者同士が繋がれる場所があるとよい。
- ・より多くの人に障害者が1人暮らしをする苦勞を知ってもらうことから始めてもよいか。自分（当事者）が1人暮らしをできるわけがないと思っていたとしても、先輩達からの話を聞くことで勇気づけられると思う。ドクターから地域に話をしてもらえると良いか。
- ・ドクターから地域で生活する視点から話をしてもらえると普及啓発においては伝わりやすいと思う。
- ・取り組みとしては、既存の支援を強化していくことも必要になってくる（くらしサポート窓口等）。
- ・当事者の方に話を伺うと自分の話を聞いてほしいという思いがある。
- ・1人暮らしをしている方で話ができる方がいるか。
→ゆったり工房内では2名。市外の方を含めると3名。リカバリーストーリーを話してくれる方はいる。
- ・ピアサポートの活用は「1」「3」に繋がってくるが、リカバリーストーリーの話ができる方もいれば集中力が続かないので話しを聞くことができない方もいる。サービスに繋がっていない人（サービス利用前）でも集まれる場所があると良い。
- ・当事者の方は、誰に一番症状を理解してほしいと考えているのか。
→家族や地域の方に一番に分かってほしいと思っている。家族が過保護になりすぎてステップアップができないこともある。家族も少し違った支援をしてもらえれば自立できる。
- ・家族の間違った知識・価値観で苦しんでいる当事者もいるため、何度も繰り返し話をしていき家族への啓発が必要か。自立が進まない最大の阻害要因は家族になっている。
- ・日進市は家族会が活発的な活動をしていないため、もっと活発していけると良い。
- ・育成会に入らない家族も多いため、もっと入ってもらえればと思う。

3 発達障害に関する研修会について

- ・当日のタイムスケジュール・配置図を確認。

	<ul style="list-style-type: none"> ・講師7名参加。一列目に4席講師席を設ける。 ・ステージは上げる。 ・参加者が少ないため、当日は部会員も後ろの席ではなく前の席に座ったほうがいいか。 ・参加者として、訪問看護・訪問リハビリテーション事業所にも声を掛けていく。 ・アンケートについて、「4」を「第1部」・「第2部」と分けて質問項目を設ける。 <p style="text-align: right;">以上</p>												
今回確認事項	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30px; text-align: center;">①</td> <td>前回の振り返り</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">②</td> <td>精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">③</td> <td>発達障害に関する勉強会について</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">④</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">⑤</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">⑥</td> <td></td> </tr> </table>	①	前回の振り返り	②	精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて	③	発達障害に関する勉強会について	④		⑤		⑥	
①	前回の振り返り												
②	精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて												
③	発達障害に関する勉強会について												
④													
⑤													
⑥													
次回検討課題	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30px; text-align: center;">①</td> <td>精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">②</td> <td>発達障害に関する研修会について</td> </tr> </table>	①	精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて	②	発達障害に関する研修会について								
①	精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて												
②	発達障害に関する研修会について												
次回開催日時	令和5年2月28日（火） 14：30～												
次回会場	障害者福祉センター 大会議室												

日進市障害者自立支援協議会 専門部会出席者名簿

専門部会名	第10回	ケアマネジメント部会
日時	令和5年1月24日(火) 14時30分～16時00分	
会場	障害者福祉センター 大会議室	

専門部会員	その他参加者
① 松尾 俊明	
② 脇本 浩行 (欠)	
③ 興梠 精視	
④ 椎葉 梢	
⑤ 改田 真美	
⑥ 神谷 真里 (欠)	
⑦ 熊谷 豊	

(市職員)

① 野村 圭一	② 櫻木 順子
③ 島津 ありさ	④ 岩城 佳寿
⑤ 大橋 志乃	

(事務局)

① 市川 英子	② 西岡 きくの
③ 橋本 花実	④ 福田 有輝 (欠)
⑤ 野々山 勝己	

日進市障害者自立支援協議会 専門部会実施報告書

報告者	野々山 勝己	市確認欄	
専門部会名	第 1 1 回	ケアマネジメント部会	
日 時	令和 5 年 2 月 2 8 日 (火) 1 4 時 3 0 分 ~ 1 6 時 0 0 分		
会 場	障害者福祉センター大会議室		
出席者	部会員 7 名	市職員 5 名	事務局 5 名
	※出席者名簿は、別添のとおり		
傍聴者	有り (名 : 別添名簿のとおり) ・ <input type="checkbox"/> なし		
報告・検討 の内容	1 前回の振り返り		
	2 発達障害に関する研修会について (アンケート結果)		
	3 第 3 回障害者自立支援協議会について		
	4 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて		
提出資料	別添のとおり		
主な意見	1 前回の振り返り ・「にも包括」についての取り組みについて ・発達障害に関する研修会について		
	2 発達障害研修会について (アンケート結果) ○感想 ・息子がかわいいと思えないことを率直に話していただいたことが印象的だった。人と比べていけないと思っても運転できないこと等話をされており、貴重な話を聞くことができた。 ・雑談の中でも褒められたこと、小さなことでも褒められたことが心に残っているという話が印象的だった。幼子のように扱っ		

てほしくないなど、親の立場より話を聞いて大切なことの再確認ができた。

- ・アンケートの中に障害が軽度だから話すことができるとあったが、一番驚いているのが私自身。あのような話す姿は想像できなかった。一歩間違えれば強度行動障害にもなっていた。支援者だけでは、限界がある。家族と一緒に支援をする必要がある。学校とも連携をしてきた。色々な経験をしてきた結果があんな姿だった。親にも聞いてもらえる機会があればと思う。
- ・障害を受け入れた時が、その人のスタートとなる。それ以前のありのままを受け入れることが良いのではなく、受け入れられないこともあることを振り返ることができた。皆さん1人ひとりが言葉に出来ていた。もっと親にも聞いてもらえるとうよかった。
- ・今回は事業所向けで行ったが、一般向けでもしてほしいという意見があった。今後部会で検討していければと思う。障害児事業所は、土曜日も開所していることもあり参加できなかった。学校、教育関係者はもっと早めに周知できるとよかった。

3 第3回自立支援協議会について（報告）

- ・精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築について（資料7）についての説明。「にも包括」構築のプロセスに沿った検討において、現在は①②の段階。地域課題の抽出について個別支援に共通する課題から地域課題を抽出し、様々な立場の者が協働し議論。ケアマネジメント部会において、令和4年5月から令和5年1月にかけて、9つの個別事例から地域課題を抽出（課題抽出シート）した内容について報告あり。

4 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて

- ・課題抽出シートにおいて2グループに分かれてグループワークを行う。

【A グループ】

- ・相談のたらい回しをしないように、どこに相談をしても繋がるように重層的支援体制を作ることができるとよい。
- ・普及啓発において、本人・家族への理解促進ができるとよい。
- ・家族会について、親がもめたりして活動が弱くなっている。活動として楽しくできるとよい。事業所大きい保護者会を作り、負担のないような活動ができるとよい。
- ・他市町では、生活能力が乏しく精神疾患がある方に対して相談員が自宅を回り支える制度がある。

	<p>【B グループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普及啓発について、家族向けの啓発が必要。家族対象にして活動ができるといい。 ・アウトリーチについて、病院受診の前にどこに相談したらいいのか分からない方に対し、相談会開催していつ・どこでと言う内容を広報に掲載して相談会を開催し、取り組むことができるとよい。 ・必要であるなら病院受診を勧めれる仕組みがあるとよい。 ・家族が支えることができない方もいるため、その時の緊急連絡先を作ることができるとよい。 ・ピアの方が話をするのできる場所を作る。また家族同伴で通うことができる場所があるとよい。 <p style="text-align: right;">以上</p>												
今回確認事項	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30px; text-align: center;">①</td> <td>前回の振り返り</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">②</td> <td>発達障害に関する研修会について（アンケート結果）</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">③</td> <td>第3回障害者自立支援協議会について</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">④</td> <td>精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">⑤</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">⑥</td> <td></td> </tr> </table>	①	前回の振り返り	②	発達障害に関する研修会について（アンケート結果）	③	第3回障害者自立支援協議会について	④	精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて	⑤		⑥	
①	前回の振り返り												
②	発達障害に関する研修会について（アンケート結果）												
③	第3回障害者自立支援協議会について												
④	精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて												
⑤													
⑥													
次回検討課題	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30px; text-align: center;">①</td> <td>次年度部会の進め方について</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">②</td> <td></td> </tr> </table>	①	次年度部会の進め方について	②									
①	次年度部会の進め方について												
②													
次回開催日時	令和5年3月28日（火） 14：30～												
次回会場	障害者福祉センター 大会議室												

日進市障害者自立支援協議会 専門部会出席者名簿

専門部会名	第11回	ケアマネジメント部会
日 時	令和5年2月28日（火）14時30分～16時00分	
会 場	障害者福祉センター 大会議室	

専門部会員	その他参加者
① 松尾 俊明	
② 脇本 浩行	
③ 興梠 精視	
④ 椎葉 梢	
⑤ 改田 真美	
⑥ 神谷 真里	
⑦ 熊谷 豊	

（市職員）

① 野村 圭一	② 櫻木 順子
③ 島津 ありさ	④ 岩城 佳寿
⑤ 大橋 志乃	

（事務局）

① 市川 英子	② 西岡 きくの
③ 橋本 花実	④ 福田 有輝
⑤ 野々山 勝己	

日進市障害者自立支援協議会 専門部会実施報告書

報告者	野々山 勝己	市確認欄	
専門部会名	第12回	ケアマネジメント部会	
日時	令和5年3月28日(火) 14時30分 ~ 16時00分		
会場	障害者福祉センター大会議室		
出席者	部会員 5名	市職員 3名	事務局 4名
	※出席者名簿は、別添のとおり		
傍聴者	有り (1 名 : 別添名簿のとおり) ・ なし		
報告・検討 の内容	1 前回の振り返り		
	2 地域生活支援拠点の評価について		
	3 令和5年度の予定		
	4 その他		
提出資料	別添のとおり		
主な意見	<p>1 前回の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達障害に関する研修会について (アンケート結果) ・第3回障害者自立支援協議会について ・精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて <p>2 地域生活支援拠点の評価について</p> <p>○地域生活支援拠点についての説明とこれまでの取り組みについての確認・意見交換を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料を元に「必要な5つの機能」を確認。 ① 相談②緊急時の受け入れ・対応③体験の機会・場④専門的人材の確保・養成⑤地域の体制づくり 		

- ・居室確保事業（7事業所あり）
→面的整備については、H29年末までに整備済。
- ・「地域生活支援拠点等が有する機能の充実のための意見交換用情報共有シート」についてこれまでの経過について確認。
- 意見交換
 - ・面的整備について、多機能型施設のような地域の核となるような施設があると良い。
 - ・市内に事業所があるが、各事業所がこのような地域生活支援拠点の役割を担っていることを知って欲しい。そのため「日進市における地域生活支援拠点等のイメージ図」を配布できると良い。
 - ・居室確保事業について、シュミレーションを行った際、LINEで連絡を行ったがどのような状況であったのか。
→事前の連絡なく、不意打ちで実施した。連絡に気づかないで返事が無かった事業所もあった。そのため、気づかなかった事業所に対しては電話で連絡を行った。
 - ・シュミレーションを定期的にも実施することも必要か。電話・FAX等利用して色々な媒体を使って連絡できると良い。
 - ・居室確保事業の実績はあるのか。
→実績はない。緊急時は、ショートステイを利用して対応した。今日連絡をもらい、今日の対応をしなければならない事例はなかった。
 - ・専門的人材の確保・養成について強度行動障害についての理解を進めていく必要がある。

3 令和5年度の予定について

- ・「にも包括」の取り組みについて本日、平澤先生より意見を伺う予定であったが、時間に間に合わず（その後、終了間際に参加）。
- ・「にも包括」について、現時点で取り組むことができることや他の部会で実施できることがあれば振っていきたい。来年度はにも包括について具体的に形にすることができればと思う。
- ・人材育成については継続して実施していかないといけない課題であるため、今後も実施できると良い。
- ・コロナ禍前の研修については、福祉人材の確保のため、①現在居る職員への研修②学生の福祉分野への関心を高めるため大学に出向いていた。
- ・民生委員の方が地域のことを知っておきたいと言っていたこともあり、地域の支援者である民生委員対象に分かりやすい講座を実施しても良いか。
- ・学生に興味をもってもらうために事業所で夏休み期間、体験の場を作っていたこともあった。その後、職員への支援に内容が

変わっていった。

- ・民生委員に向けて、障害者に対する理解が不十分であることから、当事者から話をしてもらうことは有効。
- ・民生委員に向けて、どのような方がサービス利用できるのか等勉強会を行っても良い。
- ・ピアの方と専門者から話をしてもらうことも良い。
- ・民生委員の方は、障害関係はあまりなじみがないと思う。内容が重くならない程度で研修会が出来ると良い。
→令和5年度の民生委員の集まりでは、予定が既に入っているため、その場での開催は難しい。
→一般向けで民生委員にも周知する方法で良いか。
- ・ケースワーカーと連携が出来ると「にも包括」に活用することができる。
- ・ケースワーカーより、事例紹介を事業所に向けて行ってもらう。
- ・重層的体制整備について考える時、地域共生社会の実現が上位になる。まるっと支援していくために、どうしていけばいいのかということ。高齢・障害・子育て・引きこもり・生活困窮者にアウトリーチをしていくこと。何か新しく始めると言うよりは、一歩・半歩進めていくという考え方になる。関係者が意識して問題に取り組んでいくことが必要。
- ・学生へのアプローチは、地域の特徴もあり良いか。同朋大学は福祉に就く学生も多いので現場の状況を届けていた。それぞれの大学に応じてテーマを設定しても良いか。
- ・中学・高校生に高齢者へのボランティア体験をしているが、障害分野で実施しても良いか。

(平澤先生参加)

○平澤先生に「にも包括」のポイントを伺う。

- ・日進市では、事業所が1ヶ所のみで精神障害者に特化して取り組むことが難しい。精神障害者だけでなく、身体・知的の方それぞれ含めて社会資源をピックアップしていく。精神の方だけでなく間口を広げて考えることができると良い。国の考えだけでうまく地域とかみ合っていない。現状に即して、にも包括を作っていく必要がある。
- ・ゆったり工房で話し合ったこと検討したことを部会で取り上げても良いか。
- ・方向性として、ピアの方の話しを聞くことができると良いか。また、家族の話しを聞くことができればと思う。
- ・来年度も引き続き、にも包括について検討予定。

	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度の部会の開催時間について。13:30～15:00か、もしくは、14:30～16:00を検討。各事業所の都合が合えば、13:30～15:00で開催予定とする。 <p style="text-align: right;">以上</p>
今回確認事項	① 前回の振り返り
	② 地域生活支援拠点の評価について
	③ 令和5年度予定
	④ その他
	⑤
	⑥
次回検討課題	① 部会長・副部会長の選出
	② 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて
次回開催日時	令和5年4月25日（火） 未定
次回会場	障害者福祉センター 大会議室

日進市障害者自立支援協議会 専門部会出席者名簿

専門部会名	第12回	ケアマネジメント部会
日 時	令和5年3月28日（火）14時30分～16時00分	
会 場	障害者福祉センター 大会議室	

専門部会員	その他参加者
① 松尾 俊明 (欠)	平澤 恵美 (日進市自立支援協議会会長)
② 脇本 浩行	
③ 興梠 精視	
④ 椎葉 梢	
⑤ 改田 真美	
⑥ 神谷 真里	
⑦ 熊谷 豊 (欠)	

(市職員)

① 野村 圭一	② 櫻木 順子
③ 島津 ありさ	④ 岩城 佳寿 (欠)
⑤ 大橋 志乃 (欠)	

(事務局)

① 市川 英子	② 福田 有輝
③ 西岡 きくの	④ 橋本 花実 (欠)
⑤ 野々山 勝己	